

# 安否確認と近所づきあいについてのアンケート結果 東丘校区福祉委員会

## 1. なぜこのアンケートを実施したか

豊中市の災害時安否確認事業は、市が把握した対象者（重度障害者や一人暮らし高齢者など）を、災害時に安否確認しようとするものです。本年度東町では、民生児童委員、校区福祉委員他の有志、計 51 人が実施者として登録されており、実施訓練が本年 1 月、2 月に行われました。災害時には自動的に東丘小学校に実施者が集まり、そこで対象者名簿を初めて見て（本年度は 194 人でした）安否確認に当たります。この実効性には多くの疑問があります。第一、災害時には誰でも先ず自分の家族次いで隣近所の家族の求める救助にあたるのが普通です。その場合、隣近所の結びつきが今の東町の状態でよいのか心配になります。東町は全戸が共同住宅の居住者であるという大変特殊な町です。しかも近年、階段中心の中層住宅から、エレベーター中心の高層に建替えが進行しつつあり、近所の人顔が見えなくなったという声が聞かれます。そこで、昨年 12 月標記のアンケートを全居住者に対して実施しました。ここでその結果の概要をお知らせします。

アンケートの配布部数は 4080 部で、回収部数は 822、回収率 20.1%でした。

## 2. 災害救助事業からみた東町の家庭の状況

まず家庭の状況を尋ねたものが図 1 です。ここでグラフのラベルにある「対象」は事業の対象者になっている場合、「対象外」はそれ以外の場合を示します。それぞれの数字は回答数です。市の名簿によれば東町の対象者は 194 人ですが、その内 113 人（図 1 の黒の部分）がアンケートに回答していることとなります。これは平均回収率（20%）に比べるとかなり高く、この事業に関心の高い方が多く回答している事になります。つまりこの図は必ずしも東町の家庭状況の分布を示すものではなく、一般家庭の割合はずっと高いと思われます。この図でわかることは、安否確認対象になっている家庭（黒）の他にかなり多くの救助を必要とする家庭（ねずみ色）があることです。

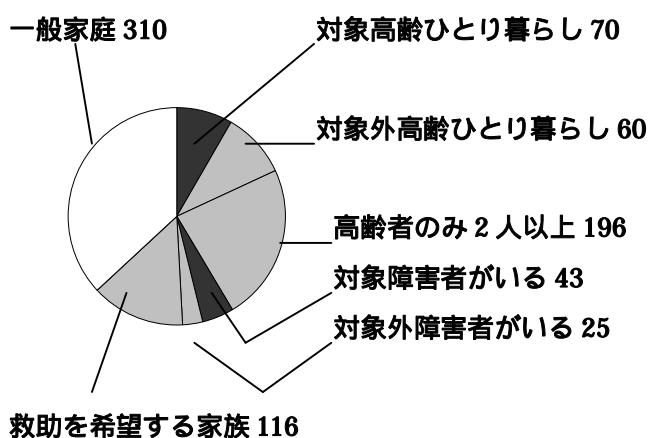


図 1 安否確認に関わる家庭の状況  
(数字はそれぞれの回答数)

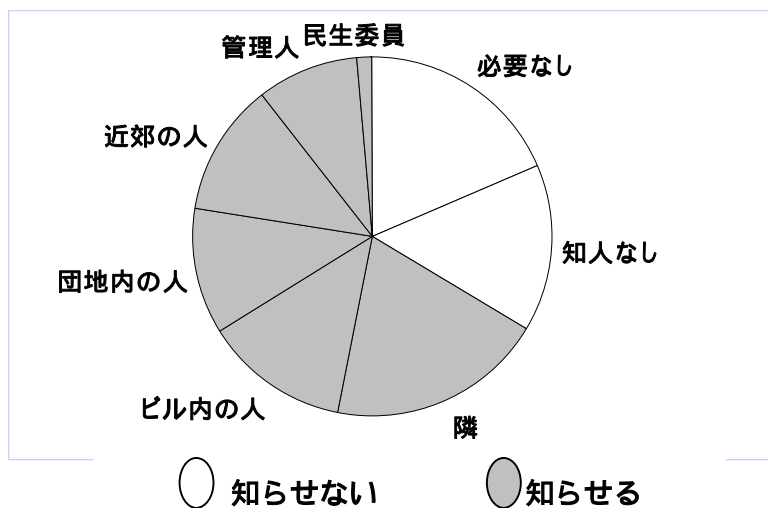


図 2 長期間の留守を誰かに知らせるか

## 3. 東町の隣近所のつきあい

次に災害のときたよりになる隣近所との関係を尋ねました。例えば、入院や旅行などで長期間留守にするとき近所の誰かに予め知らせるかを聞きました。図 2 に示しますように知らせない人が 1/3 を占めました。知らせる適当な人がいないと回答した人が多いのも注目されます。「留守」を隣人に告げるのは危険であるというコメントもありました。

図3の左は隣の人との程度のつきあいを聞いたものです。過半数の人が挨拶する程度のつきあいでした。建替えられた高層住宅と階段中心の従来住宅（三の三自治会）と比較しました。高層住宅群は東町全体と大差ありませんでしたが、従来住宅では隣の顔を知らない人はなく、何かを依頼できる関係が出来ていることがわかります。図4は隣以外の近所とのつきあいで同様の傾向が見られます。高層住宅の中には、定期的に回覧を必ず顔を会わせて手渡しする約束で回している処があり、そこでは隣の人を見たことがない、話をしたことがないという回答はありませんでした。

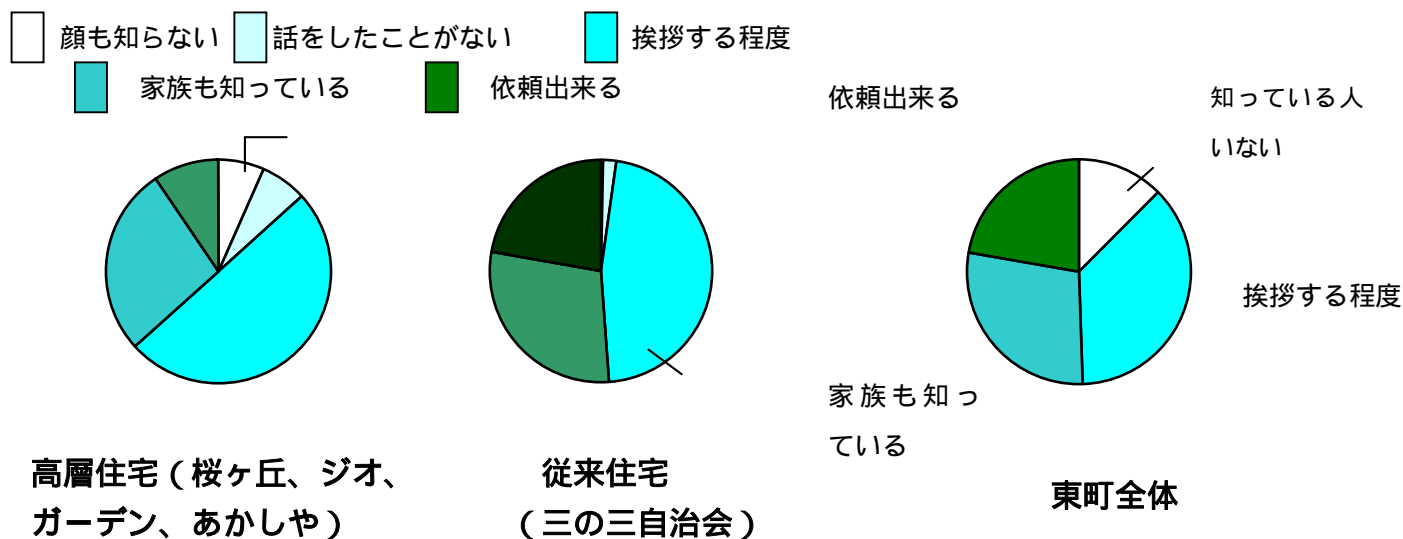


図3 隣の人とのつきあい

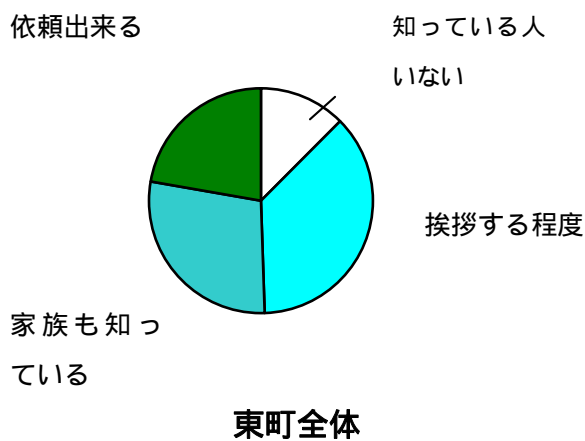


図4 隣以外の近所とのつきあい

#### 4. 主なコメント (自由記載) ( は委員会の記載への参考意見 )

○プライバシー、個人情報がかましく言われ、災害時の命がおろそかにされている。横のつながりがなくなった。○自治会単位で居住者名簿をつくり、その自治会役員が管理して災害時に役立てて欲しい。○長期留守にさいし、他人に告げるのは危険ではないか。○長期留守では新聞を止めている。わかる筈。○災害時は他人に頼れない。自力で生き残るほかはない。○高層階に居ると外のことがわからない。緊急避難を告げるベルかサインが欲しい。○難聴で一人暮らし、外から声をかけられてもわからない。不安。○95歳で要介護、83歳の奥さんの押す車椅子で避難所まで行けるか。○避難場所に不明者情報の掲示板を。安否確認には、携帯電話の「災害用伝言コーナー」171の利用もあります。○避難所である東丘小学校、八中の体育館は耐震構造ですか。八中はH21年度、東丘はH22年度工事の予定です。○避難所のプライバシーが心配。○週3回の透析を受けている。医療施設のある避難所はあるか。○趣味仲間ですいつも情報を取り合うようにしているので安心。○このアンケートで私のことを心配してくれている人達が居るのを知り、感謝しています。

#### 5. おわりに

災害時に一番心配することは何かという問いかけには、予めこちらが挙げた例すべてが挙げられました。とくに多かったのが、家族の安否でした。災害時の救助活動に多くの方が参加の意思を示してくれました。名前を書いて、安否確認実施者になってもよいとされた方は57人でした。これらの方は来年度から、安否確認実施者として登録させていただきます。地震のような広域災害以外に、火災や事故死などで隣近所の助けが必要であった事故があります。一人暮らし高齢者、知的障害者など救助を必要とする家族は出来るだけ信頼できる隣近所を見出して情報発信し、その隣の方はたえず注意ぶかく見守り、何らかの変化を感じられた時は、民生児童委員に相談して頂きたいと思ひます。アンケートにご協力有難うございました。